



カンボジアの芸術教育を変える 大きな1歩を踏み出しました

カンボジアの小学校の芸術教科(音楽・美術)にふさわしいカリキュラム作り、教科書・指導書作り、人材育成を目指し、5年6か月間に渡って進めてきた「初等科芸術教育支援事業」。

JHPがカンボジア教育省・JICA(国際協力機構)との三者協同で進めてきた、このプロジェクトは、今年3月に無事に第1版となる教材をカンボジア教育省へ提出し、集大成を迎えることができました。日本の協力で、今後のカンボジアの子どもたちの芸術教育が変わろうとしています。

今回のJHPニュースでは、そんな最新の活動報告とともに、実際にプロジェクトに携わってきたカンボジア人スタッフの特集インタビューをお届けします！

会費支払

当会の活動は皆様からの会費・寄付で成り立っています。JHPニュースと活動記録集は会員の皆様にお送りしています。

・年会費：一般会員5千円、学生会員3千円、特別会員5万円

・上記それぞれ「正会員」・「賛助会員」が選択いただけます

◆「正会員」：定例総会や臨時総会の出席資格、議決権を持てます

会費は控除の対象にはなりません

◆「賛助会員」：定例総会や臨時総会に出席できますが、議決権を持ってません

会費は寄付と同様に税法上所得控除の対象となります

口座名：特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会
郵便口座：00110-4-356264
銀行口座：みずほ銀行赤坂支店 普通 1844676

※会費期限切れの方は更新手続きをお願いいたします。

期限前の支払いも可能です。

※郵便口座からの自動引落も可能です。ご希望の方はご連絡下さい。

※銀行振込ご利用の際は、連絡先確認のためご連絡をお願いします。

※転居された際は新住所をお知らせ下さい。

2022年度 *JHP会員総会を行いました*

2022年6月25日(土)13:30より、JHP会員総会を実施いたしました。新型コロナウイルスの影響を受け、今年は3年振りの会場開催となりました。2021年度活動報告及び2022年度活動計画



内容や、現地プロジェクトの状況についてご報告し、ご参加下さった会員の方々においては、再会と懇談の場にもなりました。ご参加頂いた皆さま、ありがとうございました。

JHPのホームページから、
クレジットカード(VISA/Master)で、
会費・寄付金のお支払いができます！

URLはこちら

<http://www.jhp.or.jp/join/>



◆郵送費削減にご協力頂ける方には、Eメールにて会報を配信いたしますので、下記連絡先までメールアドレスをお知らせください。連絡先: tokyo-office@jhp.or.jp

「JHPニュース Vol.80」(2022年7月号)

発行元: 認定NPO法人 JHP・学校をつくる会

発行人: 小山内美江子

編集人: 眞栄城好香

〒108-0014 東京都港区芝5-14-2

鈴木ビル2階

TEL: 03-6435-0812

●事務局体制

東京事務所

伊藤多栄子、岩本宗孝、佐谷隆一、ゾリグト・アズサヤ、能智和美、野村政通、眞栄城好香、吉岡健治、渡辺悠斗

ブノンペン事務所

辰川はる奈、矢加部咲、山岸真喜子、バン・ラス、マオ・カナリン、ノウ・チャンタ、スレン・キムヘン、ホン・ソダッ、ヒム・サヴィー

◆ブノンペン事務所 メーン・サコーン職員が2022年3月31日付で退職。

◆ブノンペン事務所 ティム・パリー職員が2022年3月31日付で退職。

◆ブノンペン事務所 山岸真喜子職員が2022年4月1日付で就任。

◆ブノンペン事務所 高林幸祐職員が2022年5月8日付で退職。

◆ブノンペン事務所 辰川はる奈職員が2022年7月1日付で所長就任。

●今後のイベント

【2022年7/30(土)】高木凜々子チャリティーコンサート
@浜離宮朝日ホール

※上記以外のイベントを開催する際は、
ホームページやメルマガでお知らせします。

編集後記

今回は、5年半の活動の集大成を迎えた『初等科芸術教育支援事業』を始めたとする現地の活動レポートやインタビューをお届けしました。カンボジアの子どもたちの豊かな心を育む芸術教育の充実化を目指して、途中コロナ禍で試行錯誤しながらもスタッフ一丸となって取組み、踏み出した大きな1歩が、カンボジアの教育の未来を変え、広がっていくよう、今後もJHPは現地に寄り添った活動を熱く進めてまいります。(編集事務局)

お米一合運動キャンペーン 2021年度集計結果のご報告

JHPでは、2021年3月～新型コロナウイルス深刻化による収入減で困窮が深まり、毎日の食事に困っている「ひとり親世帯」を対象に、コロナ禍の食支援として「お米一合運動」に参加していただきました。2021年度の1年間で、多くの方からのご賛同・ご支援をいただきました。ご支援・ご協力いただいた皆さま、誠にありがとうございます。

..... ◆2021年度皆さまからのご支援◆

◇お米現物:2,574kg

◇支援金:924,400円

◇参加者:延べ260名

.....

このキャンペーンは、長引くコロナ禍のニーズに応えるため、2023年3月末まで、期間を延長して実施することとなりました。引き続き、この運動への温かいご支援をよろしく願っています。

認定NPO法人 JHP・学校をつくる会



カンボジアの音楽・美術教育は、長い間、独立科目ではな

く、「社会科」の一部として位置づけられてきました。そのため、芸術の授業の時間数・質が不足しており、学校に楽器や材料・用具等がなかったり、先生が教えられない場合、授業が簡略化されていました。

このような中、カンボジア教育省は2016年に教育改革の一環として、「芸術教科」を新たに設けることを決定しました。教育省内での芸術教科の教材及び人材の開発が急務となつたため、すでに現地で「カンボジアの全ての子もたちが学校で音楽や美術を学ぶ豊かな環境を育む」を目標として芸術教育の普及活動を実施していたJHPが「ニアチアチをより」教育省・JICAとの三者協同で、2016年8月から2022年2月まで、芸術教科カリキュラム開発に取り組みました。

2021年11月以降の活動報告

本事業は2016年8月の開始から5年半が経ち、2022年2月末に無事に完了いたしました。今回は2021年11月から事業完了までに行われた主な活動を紹介いたします。

1. 授業実践の再開

◆授業実践数：10 題材

新型コロナウイルス感染状況が落ち着きを見せ始めたことから、

2021年11月、カンボジア教育省は長らく閉校していた全ての小学校を開校しました。これに伴い、オンラインで進めてきた授業実践を対面に戻すことが可能となりました。マスクや人数制限などの予防措置は必要なものの、久しぶりとなった対面での授業実践に子どもたちも楽しく取り組んでくれました。



2. フォロアアップ研修の実施

◆実施回数：11回

2021年11月から2022年2月中旬まで、ナショナルトレーナー候



補へのフォロアアップ研修を週に1回ずつの形で行いました。

研修は、コロナの状況を考慮して、11、12月はオンラインで、それ以降は対面で実施しました。対面の研修は、全員が先生役・児童役を交代しながら、様々な授業を体験する模擬授業を中心に行われました。先生と児童の両方の立場から授業の内容や指導方法について考え、お互いの気付きやアドバイスを共有することで、授業内容や指導方法の改善へと繋げていきます。

3. オンライン会議の実施

◆会議回数：18回

カンボジア教育省の芸術教科ワーキンググループ(WG)とのオンライン会議を実施しました。教科書・指導書の完成に向けて、題材内容の検討や協議、修正を行いました。

4. 生徒用教科書及び

教師用指導書の第1版が完成

5年半の事業活動の成果として、初等科芸術教科1年生から6年生までの生徒用教科書及び教師用指導書の第1版が完成しました。



5. 事業完了報告会の実施

事業の最後の活動として、2月23日に教育省との最終報告会を行いました。

JHPは事業の代表者として、事業開始から完了までの経緯とその成果を報告し、完成した第1版の芸術教科の教科書・指導書の印刷サンプルとデータを教育省へ提出しました。

報告会には多くの事業関係者が集まり、ワーキンググループメンバーやナショナルトレーナーはプログラムの完了証明書、関係者へは感謝状が教育省から授与されました。

その後、3月23日には、日本国内の関係者および一般の方々へ向けたオンラインでの完了報告会がJICA東京センター主催で行われました。



Special Interview Vol.1

／初等科芸術教育支援事業スタッフ

インタビュー第一弾をお届けします！／



音楽講師・インストラクター
Him Savy
ヒム・サヴィー

教師用指導書・教科書を作る際の
伝統的な歌や踊りの選定をしました

01

JHPで働き始める前(または、2016〜2021事業に取り組む前)に芸術教育について持っていたイメージを教えてください。

『以前は、公立学校で音楽を教えていました。自分の学校では音楽を教えていましたが、公立の学校では、カリキュラムはあるものの、実際の授業はほとんど行われていませんでした。社会科の教科書の中に歌の歴史や踊りが含まれているだけで、指導法が載っていないので教員も指導ができませんでした。』

02

2016〜2021芸術教育事業を経て、持っているイメージは変わりましたか？変わった場合は、どんなところが変わりましたか？

『事業に参加できて、とても嬉しかったです。なぜかという点、教育省の教科書に芸術の学習が入り、子どもたちが芸術について学習できるからです。芸術の授業を受けると、想像力などの力が上がります。私は今、音楽学校で教えています。子ども達が基礎的な音楽のスキルを持っていると教えるようになります。また、私たちの国には、カリキュラムはありましたが、基礎的な芸術に関する力が低かったため、これからはカンボジアも他の国と同じように発展していくと願います。』



音楽指導をするサヴィーさん

03

子どもの時に受ける芸術教育の大切さをどのように感じていますか？

『私は、子どもの頃、祖父と一緒に様々な場所に行って音楽の練習をしていたため、公立学校で音楽を習っていません。これまでの芸術教育は、カリキュラムを作る人が伝統的な歌や踊りを教えたいがために、子どもの発達段階に則していない教材が多かったです。先生が伝統的な歌を歌い、子どもはそれを真似するだけで質の良いものとは言えませんでした。(続く)』

04

2016〜2021年の事業実施中、良かったこと、大変だったこと、やりがいを感じたことは何ですか？

◆良かったこと：

『芸術教育と芸術のスキルについての違いがよく分かっていませんでしたが、日本の先生たちから話を聞いて、「芸術教育」と「スキル」には違いが沢山あることが分かりました。

芸術に触れると子どもたちが暗い所から明るい所へ入れます。今までも、楽しく教えるはしましたが、あまり質の良いものとは言えなかったに気付きました。成功すれば明るい生活ができます。』

◆大変だったこと：

『参考書がほとんどなかったこと、作曲者がわからず曲、楽譜がないう曲があったことです。(歌える人に歌ってもらって録音したが、正しく歌っていたかは分からない)』

またワーキンググループのメンバーは音楽に対するスキルがない人も多いため、専門用語を理解してもらえず、説明するのが難しかったです。教科書や指導書に載せる時に、適切な言葉が見つからず苦労しました。』

◆やりがいを感じたこと：

『このプロジェクトは、カンボジアにとって初めての取り組みなので、カンボジアの教育の発展に参加することができて嬉しかったです。』

05

読者へ一言メッセージ

『カンボジアでは、芸術教育に関するプロジェクトを行うことが、とても大変でしたが、日本の先生たちに様々な方法を分かりやすく教えていただけて良かったです。カンボジアの教育の発展のためにご支援いただき、プロジェクトのメンバーとして、カンボジア人として、心から感謝しています。このプロジェクトは小学校を対象としたものですが、将来的には、中学校を対象とする部分でもご支援いただけると嬉しいです。カンボジアの発展を心から願っています。』



成人のための識字教育

第3期識字クラスが2022年5月に修了し、全受講生80名の生徒が識字者になり、新たなスタート地点に立ちました。今期は政府による新型コロナウイルスの感染防止対策に従い、8カ月間休講していた期間があり、またコロナ禍で職を失ったり、給料が激減し生活が苦しくなった受講生も少なくありませんでしたが、カウンタパート、識字教員の協力により、全員が8カ月間のコースを終え、修了試験に合格することができました。



皆熱心に学んでいます



識字クラスを受講する生徒たち



識字クラスの先生たちによるミーティングの様子

受講生 interview

＼第3期識字クラスに姉妹で参加した
受講生にインタビューを実施しました！／

- 名前：シー・ヨンさん (57歳)
- 職業：農婦

識字クラスを受講した理由は何ですか？

『小学3年生まで学校に通いましたが、内戦が本格的になり、住んでいた地域が戦地になったので、学校に通うことができなくなりました。随分前に学習したことなので、文字の読み書き、計算の仕方を忘れてしまったので、受講を決めました。』

識字クラスを受講した感想を教えてください。

『読み、書きの知識はもちろん、特に計算の仕方を理解できたことはお米を売る時にとっても役に立っています。受講してよかったです。試験はとても難しかったけど合格することができて、自分に自信を持てるようになりました。先生に感謝しています。また日本の支援者の皆様のおかげで知識を得る機会を得られました。ありがとうございます。』

- 名前：シー・ヤーさん (49歳)
- 職業：農婦

識字クラスを受講した理由は何ですか？

『小学1年生の時に内戦の影響を受けて学校を退学したので、読み書き、計算ができ、市場で騙されることがあったので受講を決めました。』

識字クラスを受講した感想を教えてください。

『試験が難しかったです。特に計算が苦手なので、分からない事にあれば姉に聞いていました。最終試験に合格できて嬉しいです。私には6人の子どもがいますが、全員大学まで勉強して欲しいと思うようになりました。ありがとうございます。』

Q1

Q2

Q1

Q2



CAPは、2015年からCCH小学校とJHPが協力して行っている活動の一つです。

このプロジェクトは、子どもたちが芸術に親しむことを目的としています。

子どもたちはCAPでの様々な活動を通して、芸術に関する感性を身につけ、自分自身の気持ちや個性、考えについて学びます。

CAPの活動には、30人〜50人の生徒が参加しています。

今回は、その中から一部をご紹介します。

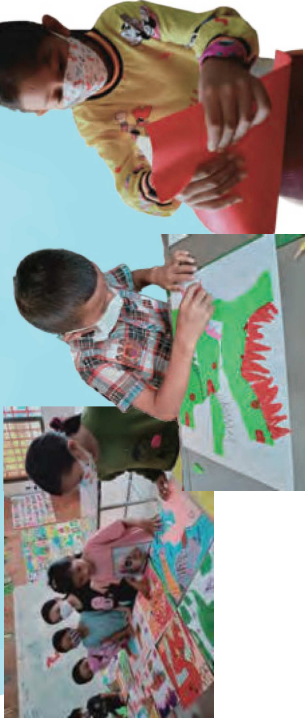
＊写真撮影時にマスクを外している写真があります。

ちぎって貼って

この活動では、子どもたちに、ちぎった紙に
絵や色を描き加えた1つの作品を作ってもらいます。
まず、色紙を3つ以上のパーツになるよう

何も考えずに、ちぎってもらい、

「このパーツは何に見えるかな？」と想像力を働かせて
白い画用紙に貼り付け、最後に絵や色を描き加えながら、
素敵な作品を完成させました。



新聞紙の建物

この活動は、子どもたちに
ビルや寺といった建築の構造を
知ってもらうために行いました。
グループメンバー皆で話し合っ
て建物の形を決め、
力を合わせて好きな建物を
作りました。



夢の扉を開くと...

この活動は、子どもたちに

「ドアを開くと何が出てくるかな」と、想像力を
使って絵を描いてもらうために行いました。

まずは、いくつかのドアを作るかを考え、
ドアが開くように、はさみで紙に切り込みを入れた後、
想像力を膨らませて様々な絵が描かれました。



JHPサポーターの皆さま、カンボジアの子どもたちへの多大なるご支援をありがとうございます。

今回で紹介した活動は、数あるJHPの活動のうちの一つです。私たちは孤児院や、その近くに暮らす子どもたちが芸術の授業を受けられる機会を提供しています。子どもたちがCAPの活動に参加し、新しく学ぶことを通して、想像力や創造性を身につけ、成長している姿を見ることができ嬉しく思います。

繰り返になりますが、カンボジアの子どもたちへの温かいご支援に、心より感謝しています。ありがとうございます。

※2022年4月7日から4月19日まで、CCHは短期休暇がありました。CCHの宿舎に泊まっている子どもたちも自分の家に帰省し、4月14日から16日のクメール正月をそれぞれの家族と一緒に楽しく過ごしました。
(スレン・キムヘン)

カンボジア 学校建設



オンライン贈呈式に参加した生徒たち

オンラインで繋がる 日本とカンボジア

2021年は新型コロナウイルスの影響により全教育機関が長期間閉鎖されていましたが、2022年5月下旬現在、コロナ禍とあまり変わらない状況で授業が実施されています。

JHPでは支援者の方々を直接現地に招いての贈呈式はコロナ流行後、実施できておりませんでした。5月に初めての試みとして、オンラインで日本の支援者の方々とスロイリノ州にあるポートム中学校を繋ぎ、贈呈式を実施しました。



オンライン中継の
インタビューの様子

オンライン贈呈式では、学校を代表して校長先生が日本の支援者の方々に支援された施設、寄贈品に対して直接感謝の意を述べられ、生徒代表より、長く使用できるように大切に使用する、とメッセージをいただきました。

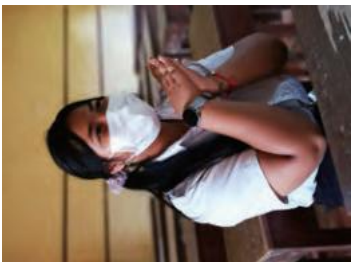
また日本の支援者の方より直接、カンボジアの生徒達へ向けて温かい支援メッセージをいただきました。その後は、支援された施設をオンラインで案内し、生徒へのインタビューを実施しました。



支援いただいた手洗場で
嬉しそうに手を洗う子どもたち

／参加した学生へのインタビューの一部を紹介します！／

interview



ポートム中学校
2年生(15歳)
アー・ピーサーさん

日本の支援者の方からの質問

『日本について何か知っていることはありますか?』

アー・ピーサーさん：

『はい、日本のことは知っています。以前アヘイスイックで日本の風景を見たことがあります。最初は日本の風景だと気づかなかつたけど、母が以前日本に行つたことがあるので、この風景は日本だということを知っていました。日本の風景を見て、とても幸せな気持ちになりました。私もいつか行ってみたいと思いました。』

オンライン贈呈式では、紙の報告書では伝えきれない現地の空気や熱気を、直接参加者の方々に感じてもらうことができました。

コロナ禍で交流事業は一時的に中止せざるを得ない状況でしたが、今後はネットワークが安定している地域を対象に贈呈式に限らず、オンライン交流の場を広げていき、日本・カンボジア間の相互理解の促進にも努めていきたいと思っています。



贈呈式に参加し、
笑顔の生徒たち

カンボジア活動車両 購入のご報告

カンボジア全土における事業展開において、唯一の移動手段である活動車両。



当会では、既存車両を長年メンテナンスを繰り返しながら使用しておりましたが、老朽化が進み、走行中に不具合が生じ、走行不能になることが多くありました。

これに伴い、2019年～2020年にかけて、カンボジアでの安全な活動実施のための「活動車両募金キャンペーン」を行いました。

◆募金総額：852,840円◆

多くの皆さまからのご支援を受け、コロナ禍の影響で現地での購入・登録手続きに時間がかかっておりましたが、無事に新車両を購入し、使用を開始しましたことをご報告させていただきます。



購入車両は、4輪駆動のSUV(3列シート7人乗り)で、補装されていない道にも強く、荷物を積むスペースも十分にあるため、カンボジアの子どもたちのための活動事業にて、大切に活用させていただきます。

皆さまからの貴重なご支援をありがとうございました。

認定NPO法人 JHP・学校をつくる会
スタッフ一同

ネパール学校建設



建設がほぼ完了(A校)

ここ過去2年間、新型コロナウイルスは、ネパールの学校建設、および社会的・経済的状況に甚大な影響を及ぼしました。社会の再活性化に向けて進んでいた中、ウクランでの戦争がネパールの状況をさらに悪化させました。ネパール経済は現在ほとんど停滞しており、早急な措置をとらなければ悪化の一途をたどることになるでしょう。

現在、新型コロナウイルスの状況は改善し、学校建設の進捗状況も改善しました。国内の1日あたりの感染者数は、平均で12.14人となっています。ほとんどの政府機関、民間機関、およびお店などは再開されており、マスクの着用やその他の感染症対策措置は義務付けられていません。外出時にマスクを着用しているのは、人口のわずか15%程度、それも首都カトマンズや大都市に限られています。国民は新型コロナウイルスが、もはや存在しないかのよう行動しています。

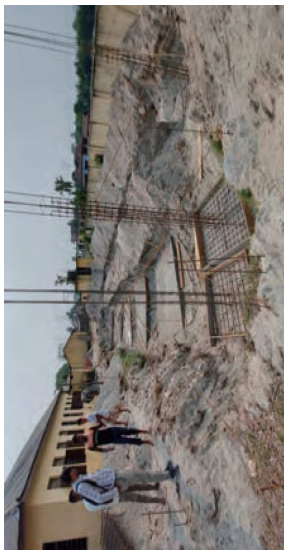
しかし、インドでの最近の感染者数の

増加は、国境を接している両国なので、ネパールにとって非常に憂慮すべき事態となっています。

2022年4月時点で、A校の建設は、ほぼ完了し、あとは電気設備、机や椅子などの備品、学校敷地内清掃等を残すだけとなりました。J校の建設は、建設資材、および学校建設の準備に約10日間必要でしたが、その後は基礎用の掘削作業を開始しました。

ネパールの教育関係者は、日本の学校建設支援者および贈呈者の方々に心から感謝の念を抱いています。

また、この学校建設プロジェクトにご協力いただいた方々にも「神のご加護がありますように」とのメッセージが届いています。



工事中のJ校と
建設技術者建設仕事を精査(J校)

第14回 南三陸町

慰霊・復興祈念桜植樹プロジェクト

3月25・27にて開催された「第14回 南三陸町 慰霊・復興祈念桜植樹プロジェクト」。
JHP三島支部を中心に、23名が宮城県南三陸町へ訪問し、
被災により103名が犠牲となった津龍院にて、ご遺族40名を含む総勢63名で、
89本の桜を植樹してきました。

被災地では、復興工事がまだまだ続いており、大切な家族を亡くされたご遺族は、
3月11日を迎えるまで、あの時に戻されたような気持ちで過ごしています。

津龍院住職の方からは、「プロジェクト参加者の皆さまとご遺族が、
にこやかに植樹している姿を見て、今回のご支援が本当にありがたいうものだったと心から
感謝しております。鎮魂の桜ですが、この桜の木が成長し、春に咲かせる花を見るたびに、
ご遺族の心の癒しになると 생각합니다。」との言葉をいただきました。

心を込めて植樹した桜が南三陸の復興の象徴となっていくことを願ってやみません。
JHPは、活動モットー「できることから始めよう」を大切に、今後も被災地に
寄り添える活動を続けていきたいと思っております。



植樹する桜の苗木



植樹活動の参加者と集合写真

第9回 ミツベチ一枚画コンクールにて

祝★優秀賞受賞

株式会社山田養蜂場様主催の『ミツベチ一枚画コンクール』が開催され、
カンボジアにてJHPが支援するCCH*のメンバー、ソムウン（Somoeun Sophea）ちゃんが、
この度、海外作品部において快挙の「優秀賞」を受賞しました。

*CCH：Center for Children's Happiness 幸せの子どもの家

◆受賞インタビュー◆

受賞にあたってのインタビューをお届けします！

受賞を聞いた時どうでしたか？

『優秀賞を受賞したって聞いた時、とっても嬉しかったです。
だって、たくさんのお友達がコンクールに参加しているんですもの。
賞を頂けるなんて思っていなかったから本当に嬉しいです。』

絵はどんな気持ちで描きましたか？

『小さかった頃の事を思い出しながら絵を描きました。
私の住んでいたラタナキリ州は、森に囲まれた山の中にあ
ります。お友達と森に遊びに行くと、蜂やお花、大きな木や
小川とか、色々なものを沢山見ました。』

どんな部分を意識して描きましたか？

『蜂や蜂の巣を1回くらいしか見たことが無かったの
で、そこが難しかったです。でも思い出したり、色々と想像
したりしながら描きました。』

最後に一言あればお願いします。

『もしまたコンクールに挑戦できるなら、もっと色使いを上手にしてみたいです。
もっと力強く自然に近い表現ができるようになりたいです。』



作品名: People and Bee

優秀賞受賞 ソムウンさん

(株)山田養蜂場様からは、コンクールへの画材支援も頂いており、
このコンクールは日頃の成果を発表する場として、子どもたちの大きな励みとなっています。
企業様の皆さまの沢山の支援が、カンボジアで実を結んでいます。

追悼 今川幸雄 名誉顧問



当会の名誉顧問を務めて頂きまし
た、今川幸雄氏が、かねてより病気療養
中のところ、2021年12月30日に逝
去されました。

今川幸雄名誉顧問は、カンボジアの
和平協定後の初代駐カンボジア日本大
使として尽力され、日本とカンボジア
を繋ぐ多くの功績を残されました。

カンボジアの歴史、政治、経済、社会、文化を深く理解する日本
の外交官として、シアヌーク元国王、フン・セン首相、その他の関
係者との議論を続け、日本が戦後、積極的に関与したカンボジア
和平パリ国際会議では、カンボジアの平和を達成するために、第3
委員会の共同議長を務められました。

また、1991年～1996年に渡り、駐カンボジア日本大使
として在任された際は、国連カンボジア暫定統治機構(UNTAC)
の下での日本の国連平和維持活動(国連PKO)の受入れや、
その後の第一回総選挙、復興プロセスに携われ、日本とカンボ
ジアの深い信頼関係構築に大きく貢献されました。

この度の訃報を受け、カンボジアのフン・セン首相も哀悼の意
を示されました。

当会においては、創立時より平成24年まで理事として、また、
その後は名誉顧問としてカンボジアの現地活動へのご助言はも
ちろん、過去開催の国際ボランティアアカデミーでは副理事長として
参加者延べ3,000名以上の地球的視野を持つ人材の育成に携
わって頂いておりました。

今川名誉顧問のカンボジアへの想いを引継ぎ、今後も、カンボ
ジアの子どもたちや未来のための教育支援活動を熱く続けて参
りたいと思っております。

ここに生前のご厚誼を深く感謝し、心からの哀悼をお祈り
いたします。

認定NPO法人 JHP・学校をつくる会
スタッフ一同



上記のQRコードからもご覧になれます

日 時:2022年7月30日(土)13:00開演(12:00開場)

出 演:高木 凜々子 (Violin) 五十嵐薫子 (Piano)

会 場:浜離宮朝日ホール

参加費:4,000円(全席指定)

詳しくはホームページをご覧ください。

http://www.jhp.or.jp/2022/06/charityconcert_2022/